

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立東浅香山小学校  
校長 松山 紀美代

## 中学校区におけるめざす子ども像

自分の目標とゆめをもち、互いの個性を認め合える（豊かな心）

## 令和7年度 重点目標

学校教育目標「一人ひとりがかがやく学校づくり」に向けて、校訓である「よく考え 協力して やりぬく子」の育成を目指し、「未来を切り拓く力としての総合的な学力および豊かな心と健やかな体の育成」「安全・安心な学びの場づくりと学校力の向上」「学校・家庭・地域が連携・協働する教育の推進」に取り組む。

## 「確かな学び」の現状

- 子どもたちに学習規律の定着を図るため「東浅香山スタンダード」の取組を進め、一定の成果は見られるが、チャイム着席や集中力という点においては課題が見られる。教職員で共通して「東浅香山スタンダード」のより一層の徹底を推進していく必要がある。
- 「自主学習ノート」の取組では、学年や個に応じた活用が広がり、工夫されたノートが増えてきている。
- わかりやすい授業をめざした授業のユニバーサルデザインの取組を学校全体で推進することによって、学習の定着や理解についての成果があらわれている。

## 「豊かな心・健やかな体」の現状

- 学校の決まりや「東浅香山10の約束」の徹底および交流タイムの取組を通して、規範意識の向上や自尊感情の醸成はみられる。引き続き、教職員でルールや決まりに関する共通理解を図っていく。
- あいさつに関しては、声掛けをすると返す子どもは多いが、自主的に進んで気持ちのよいあいさつができるよう、取組をすすめていく。
- ゴーゴーランニングや長縄跳びなど運動に関する取組を通して、楽しみながら体力向上を図ることができている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	教科学力の向上	基礎基本の確実な定着を図るとともに、課題をつかみ考え抜く授業を展開する。	めあてをもって学習する姿勢を徹底するとともに、繰り返し学習することによって、基礎基本の確実な定着を図る。	めあてをもち、問題解決のできる授業が増え、定着度テスト等で基礎基本の定着が見られる。	定着度テスト 学力調査等	毎月 5月	○	校内研修及び計画的な研究授業の実施で授業力の向上に努めている。	○	7割以上の子どもがめあてをもって学習に臨んでいると回答。基礎基本の定着に関しては家庭学習の習慣化など家庭との連携も重要と考える。	○	めあてを明確にした学習ができるよう今後も指導をお願いしたい。
			考えを説明・交流する力、学んだことを活用する力を育成できる指導を工夫する。	考えを相手に伝え、学び合う場面が授業で多く見られ、活用力の高まりも見られる。	学力調査等 学校教育アンケート	5月 12月	○	校内研修及び計画的な研究授業の実施で授業力の向上に努めている。	○	話し合い活動が楽しいと回答する子どもが7割以上だが、活用力については今後も研修を深めていく必要がある。	○	考えを説明し交流する力は今後も非常に大切な力である。引き続き指導をお願いしたい。
	学びの能力の向上	学習規律のさらなる定着を図るとともに家庭学習習慣を確立する。	●「学習スタンダード」による学習規律のさらなる徹底を図り、すべての子どもにわかりやすい授業を創造する。	子どもの授業に対する集中度が増し、学ぶ意欲が向上する。	実施状況 学校教育アンケート	随時 12月	○	「学習スタンダード」を掲示し、学校全体で学習規律の統一を図っている。	○	全教職員で学習規律について意識してきた成果はあるが、集中力については課題が感じられる。今後も子どもたちの学ぶ意欲の向上につながる授業展開を実施していく。	○	学習規律は集団での学習には欠かせないため、今後も指導をお願いしたい。また、子どもたちの学習意欲が高まる授業をこれからもお願いしたい。
			全学年で「自主学習ノート」の取組をすすめ、家庭学習習慣を定着させる。	自主学習ノートの取組の定着とともに、家庭学習、読書習慣が身に付く。	実施状況 学校教育アンケート	随時 12月	○	全学年で取組の推進が図られている。	○	宿題・自主学習は8割の子どもがしっかりとできているが読書習慣については課題がある。	○	自主学習ノートの取組はともよい。自ら課題を設定し学ぶ力の育成につながる。
	個性と才能の発揮	学習支援対策を計画的・継続的に実施し、個に応じたきめ細かな指導を充実する。	タブレットを効果的に活用し、子ども一人ひとりが考える授業を展開する。	多様な方法で情報収集したり、自分の考えを表現したりできる。活用率で昨年の数値を上回る。	実施状況 学力調査質問紙 CBT調査	随時	○	各クラスにおいて適切かつ効果的なタブレット活用が推進されている。	◎	様々な学習場面での活用が推進できた。昨年度ご指摘いただいた低学年からの利用にも効果が見られた。	◎	タブレットの活用が進み、効果的な利用ができているとともに、子どもたちのPC処理能力向上につながっている。
			●授業のユニバーサルデザインをさらに推進するとともに、一人ひとりの子どもの特性に合わせた指導・支援を充実する。	学習支援対策により、学習の理解や定着が深まり、学力が向上する。	実施状況 学力調査等	随時 5月	○	学習支援対策委員会を中心に子どもの特性等について教職員間で情報共有を図り、個に応じた指導の充実につなげている。	◎	個に応じた指導が必要な子どもの特性を教職員間で情報共有し、適切な支援および専門的なサポートにつなげることができた。今後も個に応じた指導の充実を図っていく。	◎	個々の特性に応じる難しさがある中、きめ細やかな指導に感謝している。今後も引き続き指導の充実をお願いしたい。
豊かな心・健やかな体の育成	豊かな心	豊かな心、思いやりのある心を育成し、いじめがおこらない集団づくりに取り組む。	●「東浅香山小学校10の約束」の徹底に向けた子どもの意識が高まる取組により、さらに規範意識の醸成を図る。	校内の様々な目標やルールを守ろうとする意識が高揚し、静謐な学習環境が整う。	実施状況 学校教育アンケート	随時 12月	○	全教職員で同じ方向を向いた指導を行っている。	○	学校のルールについて意識しているとの回答は9割を超えているが、行動が伴えない子が多いことが課題である。今後も家庭と連携しながら全教職員で指導を進めていく。	○	安心安全な学校生活のため、今後も指導をお願いしたい。保護者としてできることはしていきたい。
			★あいさつの徹底、感謝の気持ちをもつことができる指導などを通して、思いやりのある心を育て、いじめがおこらない指導を徹底する。	子ども一人ひとりの自尊感情が高揚するとともに、いじめがおこらない集団となる。	実施状況 いじめアンケート	随時 毎学期	○	校長が毎朝正門に立ちあいさつを行うとともに、朝礼の講話において自尊感情の高まりにつながる内容を伝えている。	○	朝のあいさつの効果は実感できるが、相手意識や自尊感情の高まりには今後も継続したはたらきかけが必要である。	○	今後も継続した取組をお願いしたい。あいさつのできる子が増えることを願う。
		★全ての子どもへの対応について、家庭との連携を図るとともに組織的な体制で取り組み、スクールカウンセラーや関係機関とも連携し改善に導く。	学校生活が楽しいと感じる子どもが増える。	実施状況 学校教育アンケート	随時 12月	○	会議等で子ども対応の内容の共有を図り、組織的対応を実践するとともに、必要に応じて関係機関と連携している。	○	SCやSSW、教育委員会、役所など様々な関係機関と連携しながら不登校や問題行動など様々な課題に対応することができた。	◎	安心安全な学校生活のため、今後も関係機関との連携を強化してほしい。地域や保護者も協力していきたい。	
	健やかな体	縦割り活動等によるリーダーの養成と仲間意識を醸成する。	●交流タイム等を通して、集団の一員としての意識を高めるとともに、それぞれの役割を意識し、自尊感情を高める取組を推進する。	縦割り活動を通して、高学年よりリーダーとしての意識が高まり、校内全体で友達のをよさを認めることができる。	実施状況 学校教育アンケート	随時 12月	○	交流タイムにおいて高学年のリーダー意識が高まっている。	○	全学年において係活動など個々の役割を意識できている子どもは9割を超えている。縦割り活動や授業での交流などを通して高学年としての自覚の高まりを実感している。	○	異学年の交流は子どもたちにとり自尊感情を高める効果が得られるため、今後も続けていってほしい。
			運動に親しむ環境を整え、体力を向上させるとともに、体力の礎となる健康教育・食育を充実させる。	ランニング等の継続した取組により、運動の楽しさを実感させるとともに体力向上の推進を図る。	実施状況 学校教育アンケート	随時 12月	○	体育的行事等を通じて、体力向上を図っている。	○	8割を超える子どもが運動が好きと回答。今後も体育的行事や取組を継続していく。	◎	体力向上だけでなくやる気につながる運動の取組であり、今後も継続してほしい。
地域協働	信頼される学校体制	学校力へのさらなる向上をめざすとともに、学校・家庭・地域の協働によるひろがる教育を推進する。	学校HPや校報、毎月の自治会定例会等で積極的に学校の方針や日々の教育活動を発信する。また、登下校の見守り活動をはじめ、校区での安全・健全育成に地域と協働して取り組む。	学校の教育方針・教育活動に対する理解が深まる保護者が増える。	実施状況 学校教育アンケート	随時 12月	○	学校休業日には毎日HPを更新するとともに、校報においても教育活動を保護者・地域へ発信している。	◎	88%の保護者が学校の情報発信を肯定的に判断。今後もHPや校報等を活用し教育活動の積極的な発信をしていく。	◎	HPは学校生活の様子がよく伝わり今後もぜひとも情報発信を続けてほしい。また、校報や地域での情報発信は保護者だけでなく地域とのつながりにも効果的である。
			保幼小、中学校、学校群など縦・横につながる教育活動の推進を図る。	わくわく広場の実施および学校群での情報共有や合同研修の実施。	実施状況 学校教育アンケート	随時 12月	○	学校群での合同研修やこども園との交流を実施している。	◎	学校群での連携、こども園との交流だけでなく、6年生のキャリア教育においても地域と連携した取組ができた。	◎	地域との連携は重要である。今後も地域の学校として縦横につながる教育活動に期待している。
		学校力向上プランの進捗を把握し、必要に応じて調整を図る。	進捗状況を確認し、必要に応じて調整を図る。	実施状況 学校教育アンケート	随時	○	進捗確認を行う。	○	進捗確認を行う。	○	進捗確認を行う。	

## 校長より(年度末)

学習支援対策委員会を中心に子どもたちの情報共有を行い、個に応じた指導の充実が図れた。生徒指導面と特別支援教育を連動させたケース会議の体系化や記録化をさらに進め、連携の質を向上させ、全教職員が同じ方向性で指導にあたる体制を整えていきたい。校内研修については「見取り・検討・改善・共有」の循環型とし授業改善の継続性を高め、指導力向上を図ってきたい。評価いただいた取組は継続・強化し、今後も保護者・地域との連携を密に信頼関係をより深めていながら、子どもたちの自尊感情や安心感が高まる教育活動を実践していきたい。

## 学校関係者評価者から(年度末)

今年度の取組を客観的に振り返り成果があらわれているところは一定の評価ができる。ただし、よりよい教育的効果を狙った取組内容の変更の周知が不十分なことがあり、変更の利点が事前に周知できていなければさらなる効果や評価が期待できていたように感じた。今後さらに地域や保護者と連携を密にし、子どもたちの健全な教育活動の推進に努めてもらいたい。